


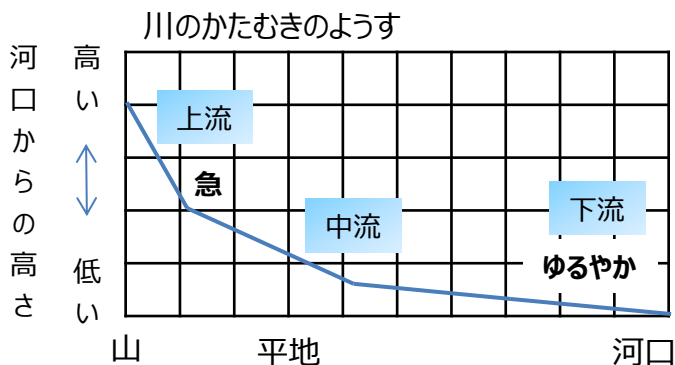


川のように・川の働きによってできる地形1

	上流	中流	下流
川のかたむき	急	←————→	ゆるやか
流速	速い	←————→	おそい
水の量	少ない	←————→	多い
川幅	せまい	←————→	広い
石の大きさ・形	大きく、角ばっている	←————→	小さく、丸みをおびている
	岩 	小石 	砂や粘土 
侵食作用	大きい	←————→	小さい
運搬作用	大きい	←————→	小さい
堆積作用	小さい	←————→	大きい
おもなはたつき	しんしよくさよう 侵食作用	うんぱんさよう 運搬作用	たいせきさよう 堆積作用
おもな地形	V字谷	扇状地 三日月湖 (川が山の谷間から平地に出るところ)	三角州



ブ化く
V字谷



侵食によってできた深く険しい谷
谷の断面が、アルファベットのVの形であることから、V字谷と呼ばれている。

せんじょうち
扇状地



川が山の谷間から平地に出るところに小石や砂が扇(おうぎ)形に堆積してできた地形

扇状地では堆積するつづが比較的大きく、水がしみこみやすいため地下水になって流れる水も多い。扇状地の終わりには、地下水がわきだし泉になることもある。

川の働きによってできる地形2

さんかくす

三角州

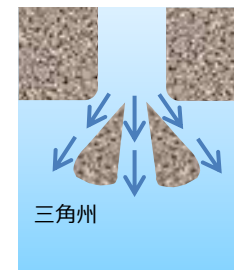
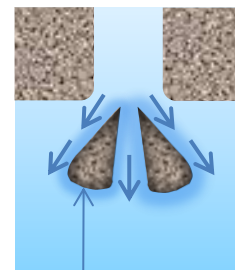


大きな川が海に流れ込む河口では、川底のかたむきがゆるやかになり、水の流速が非常に遅くなるため、運ばれてきた砂や粘土が三角に堆積してできた地形

川の流れによって運ばれてきた砂や粘土が河口に出ると、堆積し川底は浅くなる。すると、川の水はその横を流れるようになり、水の流れと水の流れの間にはさまれた部分は、さらに積る。

このような働きがくり返されると、河口付近には、大きな三角形をした土地ができる。それを三角州（デルタ）という。

※三角州は、海水の流れによっていろいろな形に削られるため、必ずしも三角になるとは限らない。



砂や粘土が堆積し、浅くなる

さらに浅くなり水面上にでてくる

みかづきこ

三日月湖

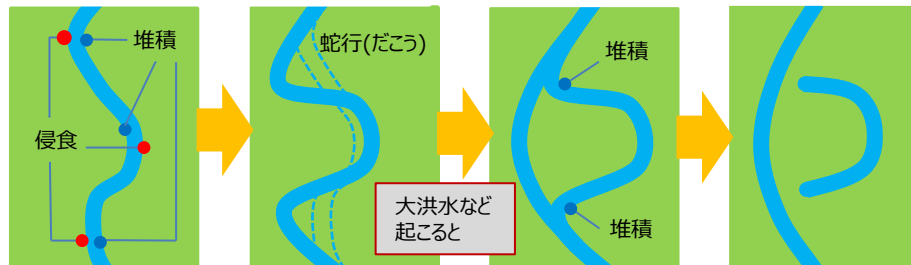


大きな平野を流れる中流や下流の川が曲がっているところで、**侵食作用**や**堆積作用**によって川が蛇行したときに洪水が起こると、取り残された曲がった部分が、三日月形になった小さな湖

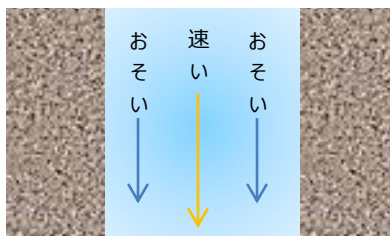
カーブのある川では、外側の方が流速が速く、侵食作用が大きくなるため、外側の川岸は削られる。逆に、カーブの内側では、堆積作用が大きく、石や砂が積り、河原になる。これをくり返すと、川の曲がり方はどんどん大きくなり蛇行する。

そこに大雨などによる大洪水が起こると、川岸がくずれ、新しく川の流れができる。すると、曲がった部分と新しくできた川のつなぎ目に土砂が堆積し、曲がっていた部分は取り残され、三日月形の小さな湖ができる。これを三日月湖という。

しかし、今では洪水を防ぐために堤防(ていぼう)や、コンクリートブロックなどを設け、川の流れる道筋が変わらないようにしている場合が多く、三日月湖は、なかなか自然にできなくなっている。



まっすぐな場所



曲がっている場所

